

【白塔歌仙会第四五四回六月々例会】「田植え唄」の巻

畔と田で響き交わせる田植え唄
笈羅 恆雄

編笠脱いで仰ぐ大空
悦子 七緒

縄緋いは父祖伝来の匠にて
和子 果穂

館も求肥もあの菓子司
恆 笈

手土産は「アフター・エイト」宵の月
七 悦

初秋の花嫁角隠しする
恆 笈

振袖にひろがる花野ほの明く
七 悦

これで会えると八百屋の娘
和 果

身代わりの袈裟を殺めて出家する
悦 七

旅の琵琶弾き語る顛末
果 和

道端の自然の摂理にふり替える
悦 七

蠟石で描くまあるい地球
和 恆

裏側も探られる世や冬の月
七 悦

乙子の朔日鉱泉みつけ
恆 笈

さあ遊ば鬼ごっこだの隠れんぼ
笈 恆

憧れてるのゼロゼロセブン
和 悦

花見舟推しの話も面白く
悦 七

紳士の皆様陽炎座へと
恆 笈

影籠ろサラサーテの盤に針落とす
和 果

嗚咽を漏らす亡き友の妻
悦 七

黙って食べるおむすびを焙じ茶と
恆 笈

助っ人さんが猿やっつける
悦 七

八つ橋が繋ぐ彩り菖蒲園
和 恆

パラソル点々散策びより
七 悦

躓いて寝たきりになる粗忽者
和 果

終の褥に初恋の夢
恆 笈

煙草屋の看板に惚れ横丁へ
悦 七

俺のお宝プラモデルバイク
和 果

淡き月後姿の猫の毛並
悦 七

むかご飯焚きふるさとと思う
恆 笈

砧打つ音も間遠にやがて已み
和 果

薄らぎ行くかこの悲しみも
悦 七

泣きぼくろ忘れがたみの彼女とか
恆 笈

チョコの家にもブランコあった
和 果

もちよった筐をひろげて花の宴
悦 七

御苑の池に蝌蚪泳ぐころ
七 悦

連衆・笈羅、恆雄、悦子、七緒、和子、果穂。
令和六年六月一日首、令和六年六月十二日尾（文音）